【会議録】

令和5年度 ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン懇談会

- 開催日時：令和6年2月8日（木）10時00分～11時30分
- 開催場所：福井県繊協ビル6階602号室
- 出 席 者：ビジョン懇談会委員　　14名（1名欠席）
  各市町政策担当課職員　　10名（1名欠席）
  各ワーキンググループ職員　29名

意見等

（1）第1期ビジョンの取組状況について

- 新幹線開業に向けて、当行も色々な取組を銀行の枠を越えて行っており、連携中枢都市圏ビジョンの取組を関心をもって拝見している。例えば、県の伝統的な産品を発信する際に、生産量が圧倒的に少ないのが残念。生産者の都合にもよるが、後継者や生産拡大を後押しする施策が必要でないかと思う。農林水産物でも同様に感じている。
- 3月16日から、ふくアプリで一日券や特定施設の券など魅力的な企画切符を買うことができる。アプリのユーザー数も10万人を超えており、県民の方に育ててもらっているアプリである。今後も利用いただき、県外の方にもアピールしていただけると、福井の魅力向上につながると思う。
- 各市町が連携して、非常に多くの事業に頑張って取り組んでいただいていると思う。コロナ禍前につくった KPI はなかなか扱いづらい部分もあろうかと思うので、未達成の部分は、第2期で見直しながら取り組んでほしい。

（2）第2期ビジョン（案）について

- 私の肌感として、そばが発信されている感じがしていない。行政が観光産業においてそばを主軸に他県と戦っていくようなイメージがあったため、もっと力を入れてふくいの観光産業として成り立たせてほしい。
- そばに特化したチームを作るなりして、ただそばを食べてもらうだけでなく、今後、そばを武器として様々な形の事業を構築したらどうか。例えば、そばアレルギーがあるのであれば、それをしっかりと研究することで、どこのそばに対しても熱心であるというイメージを定着させるなど、発想の転換によって事業を拡充させるやり方もあると思う。
- 在来種そばは非常においしいと評判であり、地区によって味が違うため、色々な味が楽しめる点もふくいの強みだと思う。在来種そばは非常に天候に左右されやすい。また、粒も小さくて収穫量も少なく、収穫できない年もある。非常につくりにくいものではあるが、収穫量を増やせるよう、JA としてもしっかりと指導していきたい。
- 福井商工会議所としてもそばをアピールしたい。新幹線が来るタイミングで、1年ほど前からそばと地酒とおつまみをお店で提供する「SOBAR（ソバール）プロジェクト」を始めており、今後、パッケージとして活用し、県外の方にも利用いただきたい。また、飲酒を伴う取組であるため、MaaS アプリも活用し、公共交通機関とも連携していきたい。

- 今後、間違いなく人口が減少していく中で、それに対するアプローチの方法として、ビジョンには一般的な話しか並んでいないように思う。一極集中したブランディングやプロモーションに取り組むことも必要ではないかと思う。
- ビジョンの中で、KPIとして観光の入込数を設定しているが、最近、国では観光消費額や観光に携わる人の数を設定している。それらの数値をどのように正確に把握するのかという話もあるが、富山のように、新幹線が通って2～3年後に投資が始まるのであれば、5年間のプロセスの中で観光に携わる人がどう増えるのか、どう消費額の単価を高めていくのか、というところをもう少し示していただけるといいかなと思う。マーケティングを活用しながら事業を展開していくと、面白い地域になるのではないか。
- SDGsに絡んだDX化への支援のアプローチが必要だが、専門家が足りないという人的な問題がひとつある。
- また、二次交通の問題について、先日、高山に行ったが、欧米の方がとても多かった。外国人にとって人気のある観光地の中に岐阜県が入っており、高山から福井県へのアクセスルートを使った入込を考えてもよいのではないか。高山にはホテルが 5,100 客数あるが、人手不足により6割しか稼働できていない。そのような状況からも、ふくいへ観光客を受け入れる仕組みづくりができたらいい。
- 移住促進について、田舎には空き家が増えている。圏域の空き家の情報を共有化し、住みやすく改築することで移住定住の促進につながるのではないか。
- ごみ処理について、日本はごみの焼却場が世界の中で最も多いらしい。例えば、ミミズに生ごみを食べさせるなどの取組を地域で取り組んでいくと、ゴミの量を減らせるのでないか。
- 昨年末に冠山峠道路が開通し、翌日には 20～30 台ほどの車列をなす渋滞が起き、住民としては、トイレや食事場所、宿泊、道案内などの面で想像以上に不安を感じた。アプローチの仕方について、相当考えておかないと、最初は少しびっくりするというのが率直な意見である。
- 池田町は人口 2,200 人ちょっとの小さな町であり、高齢化率も驚くほど高い。農業振興や観光面への対応にも限界があり、限られた農産物をどう販売していくか、どう盛り上げていくかという点が、今私どもの仕事として求められてる。
- 国のみどりの食料システム戦略や環境SDGsとの関わりが問われる中、池田町では、生ごみをボランティアで集め、町独自の施設で堆肥化し、それを町内で使う循環型の町として取り組んでいるが、相談できる先がいつも限られてしまっている。様々な会議でも、いつも同じメンバーが集まって同じような形になってしまっているため、本日のこのような機会も活用し、色々と情報交換させていただきたい。
- 観光物産の立場として、どうしても目の前の 3 月 16 日を起点とした大交流時代というところの対応に追われてしまうが、一方で、人口減少問題への対応について、中枢都市圏の連携が非常に大事であると感じている。更なる情報をいただけるとありがたい。
- 新幹線の越前たけふ駅前に 1 年前に開業した道の駅には、休日になるとかなりの数の車が入っている。解体ショーや手ぶらでBBQなど、指定管理の方の様々な努力もあり、非常に賑わっている状況である。県外ナンバーの車も多く、先ほどの冠山峠道路を通って来ている方もいるかと思う。
- また、村田製作所の研究施設の建設も始まり、現在、基礎部分の工事が進行している。最初は 400 名程度で立ち上げ、最終的には 800 名ぐらいの拠点にしていきたい、という話を伺っており、完成すれば、また周辺の開発にも繋がっていくのではと思う。

- 移住に関して、一旦、県外へ出て行った方がほとんど戻ってこないという現実が課題だと思っている。（男性でも 30%、女性だと 15%ぐらいしか戻ってこない）
- 将来、地元に定着するよう、子どもが小さい頃から、地元にもいい企業があるということを伝えていく取組を（学校だけでなく）家庭でも進める必要があると思う。
- 観光プロモーションや移住の相談会に参加している中で、やはりデータに裏打ちされた説得力のあるプレゼンをしないと、なかなか興味を持っていただけないと実感している。例えば、農業関係で言えば、ミディトマトと桃太郎トマトとの違いについて、「リコピンは倍以上、ビタミンCは 3 倍以上あるから女性に人気」だとか、そういう感じで。
- また、観光客の受け入れ環境整備について、コロナ禍前は、春節になると観光案内所が中国人をはじめとする外国人の方の荷物で溢れたようなことがある。先日、北陸新幹線の試乗会に行った際、圧倒的にコインロッカーが足りないと感じた。そういった点も、連携中枢都市圏の取組の中で、何か対応していけるといい。
- 今後ますます高齢化が進み、2040 年までは高齢者人口が増え続ける中、そういう人たちがどうやってちゃんと生活していけるのか、という視点も、ビジョンの取組の中では非常に重要なことだと思う。
- すでに嶺北の中でも、医療に関してはかなり差が出ている。ほぼすべての病気の治療ができる2次医療圏が、嶺北には「福井・坂井」「奥越」「丹南」の 3 つあるが、完全にすべて対応できる医療圏は「福井・坂井」のみである。奥越ではお産に対応できない。
- 医療と福祉、特に高齢者の生活の場が安定して供給されるか、また、それをちゃんと見守る人たちがいるかということが非常に重要である。
- 現在、医療介護に従事する人の数は多く、雇用が生まれることで経済成長につながる期待がある一方で、介護士のようにすぐに辞めてしまう方も多く、なり手不足が問題である。
- 学校教育に関わる担当者会議について、例えば、外国人など児童生徒の問題あるいは部活の地域移行、学校の統合の問題など、学校の中だけでは解決困難な問題に関して、連携中枢都市圏という枠を活用し、学校の方々や教育委員会以外の方とも新しい繋がりをつくり、話し合う機会としてはどうだろうか。
- また、人材活用について、人口が減少していく中、ふくいが発展していく 1 つの手段として、様々な方々と丁寧にコミュニケーションを取り、繋がりや 1 つの社会ができるというダイバーシティの考え方も今後考えていただきたい。
- 海岸線の地区は高齢者が多く、中には一人暮らしの高齢者もいる。能登地震や国道 305 号線の落石よる通行止めの際のように、指定された避難場所までたどり着くことができない状況においては、他市町において高いビルなどを避難場所として指定し、連携して避難者を受け入れていただくなど、広域避難体制の整備をお願いできると助かる。
- ふくいは今、100年に一度のチャンスとしてクローズアップされ、実際に県内GDPの数値も上がり、北陸新幹線や中部縦貫自動車道、冠山峠道路等の効果が表れてきている。
- 今後は、県が 1 つになってやっていかないといけないが、県民の意識がいまいち盛り上がっておらず、まだ総合力が出し切れていないと感じている。
- みなさんのような機関に所属している方々は、このチャンスを生かそうと、やれることはやってやり尽くすぐらい取り組まれているが、一般の住民にはそこまで想いが伝わっていない。一般の住民に対してどう啓発し、意識を醸成していくか、この嶺北連携中枢都市圏がコアな機関となって取り組んでいくことが大切かと思う。